

令和2年度 第2回 人生支援計画策定委員会 議事録

- 日 時：令和3年2月1日 14:30～16:30
- 場 所：のいちふれあいセンター 第1, 2研修室
- 出席者：32名（策定委員12名、行政16名[市長含む]、傍聴4名）

1. 開会

（市長挨拶）

人生支援計画は、市民一人一人の生活に直結する施策の検討なので、影響が大きいと考えている。コロナ禍の中で、日常や社会の変化に応じて施策もそれに対応したものになっていくと思うので、今後、この委員会の中でも皆さんそれぞれの仕事・生活環境の視点からご提案をいただきたい。そしてそれを反映していくという形ができればさまざまなことに有効的であると考えているのでよろしくをお願いします。

（委員長挨拶）

先ほど速報で、緊急事態宣言が1ヵ月ほど延長するというニュースが出た。私も会議、授業全てがオンラインになっており、なかなかリアルで人と会わない状況が続いている。昨年1年間を振り返って、「歴史が加速した年」だと言われている。本来であればもっとゆっくりIT化が進むはずだったのが、コロナの影響により昨年1年で加速した。私たちの生活様式も随分変わってきたので、そういったことも踏まえて、この人生支援計画もアフターコロナに向けて新たに発展していくのではないかと考えている。

2. 議題

- ①各部会報告について－各部会事務局長から報告【資料1、資料2】－  
＜意見交換＞

（委員）

前回の策定委員会でも公園について話したが、自分も小さい頃は休耕田や稲刈り後の田んぼで遊んでいた。安全面を確保することが必須なのは理解できるが、今後も意見をあげていくことが大事だと感じている。

（こども課長）

この後の議題でも出てくるが、香南市内に広い公園が少ないことへの対策の1つとして、県立のいち動物公園の年間パスポートを小学生までの保護者を対象にプレゼントする事業を始める予定。

※副市長より提案…議題③の「R3年度新規・拡充事業（案）等について」の説明も先にして、議題①と併せて意見をいただくという形にしてはどうか。

→委員了承。

③R3年度の新規・拡充事業（案）等について ー各部会事務局長から報告【資料4】ー  
<議題①と③について意見交換>

（委員）

幼年就学期の新規事業に「ICT支援員を増員する」とあるが、これはどういう人をイメージしているのか、募集方法等を教えてほしい。例えば高校生や大学生、ポリテクの学生が子どもに教えることができたりしたら良い効果が生まれるのではないか。

（学校教育課長）

GIGAスクール構想を進めていくためには、教職員がもともと持っているスキルでは足りない、早いスピードで学校になじませていくためには支援員が必要だと考えている。現在は長期の休校は想定されていないことや、持ち帰るには機器の軽量化が必要なこともあり、家庭ではなく学校でどう使っていくか、がテーマになっている。基本は学校内でしっかり考えて、学校で実施するという姿勢なので、支援員はそれをサポートできる人、ということになる。ICT支援員については募集をしてもなかなかいない状況。学生の力を借りることも検討したが、まず、今はGIGAスクール構想をしっかり進めようと計画しているので、スキルが担保できる外部委託を検討中。

（委員）

学生が相手だと担保が不安だということは一定理解できるが、若者の方が進んでいる、詳しいということもある。今後、アルバイトでの学生の活用等を検討する際には高知大学の学生に声かけできるので言ってほしい。

（委員）

部会で協議したことが活かされて事業につながっており嬉しい。新規事業の高齢者可燃ゴミ戸別回収事業について、①対象は1地区に限られているのか、②利用者に新たな負担はないのか、教えてほしい。また、高齢者の移動支援コーディネーターを雇用するとのことだが、なかなか進まないのが現実だと思う。どういう取り組み方を考えているのか。

（高齢者介護課長）

高齢者可燃ゴミ戸別回収事業については第2回部会后、シルバー人材センターと環境対策課、高齢者介護課で協議して、対象者数やコースが想定されないと予算も計算できないということで、ケアマネ等に調査をした結果、対象者は40～50人、2人1組の2チームで回収に回る、ということになった。地区を限定することは考えておらず、市全体が対象。利用者の負担はなし。

高齢者の移動支援コーディネーターには、まずは高齢者介護課の職員と一緒に地域に入ってもらい、協議会やボランティアの意見を聞きながら、外出支援の受け皿づくりの推進役になってほしいと考えている。

(委員)

成年熟年期部会の「ウォーキング&サイクリングで健康増進」というテーマについて、この間塩の道トレイルランニングに参加したが、素晴らしいところがたくさんあった。塩の道、あじさい街道、三宝山や物部川の河川敷、海もあり、香南市の環境は県下一ではないかと思う。アウトドアブームでもあるので「けんこうなんし（健康+香南市）」としてPRできるのではないか。移住促進の面でもアピールになるのではと思う。

(商工観光課長)

物部川の河川敷をサイクリングコースとして国土交通省に整備してもらったので、今後、香南市、香美市、南国市の3市が連携した取り組みを考えている。

(委員)

移住促進については with コロナ、アフターコロナを見据えて取り組んでいると思う。移住を希望する人の考え方も変わってきているのではないか。人材派遣会社のパソナが淡路島に移転したと聞いた。いろんな企業が田舎への移転を考え始めたのでは。早期退職した人やUターン、Iターンで移住を考えている人は、横のつながりが欲しいと思っているのでコワーキングスペースの整備等があればいいと思う。移住促進や起業支援の取り組みも今までと同じではダメだと思うが、こういう風に変えていこうと考えていることがあれば教えてほしい。

(商工観光課長)

コロナの影響で、東京から地方に移転する企業が多くなっているというイメージがあるが、実際はそこまでではない、という話が、市と協定を結んでいる東京の会社から出ている。しかし、出勤しなくても会社は回るということがわかってきたので、東京に本社・従業員は香南市在住、というケースが今後でてくるのではないかと、とも言われている。企業誘致はもちろんだが、そういったケースのマッチングを今後検討していく。また、コワーキングスペースの整備については、市の空き施設の利用も含め、考えている。

(委員)

子どもの時の体験は大人になっても残ると思うので、子どもの学びの場は大事だと考えている。人材バンクで、UIターンの方を含め、知識がある方がどんどんつながっていければと思うが、現在の利用率や今後の活用について、教えてほしい。

(生涯学習課長)

現在の登録は、主にこどもよさこいの支援をしてくれる方や読み聞かせのボランティアの方に留まっている。どうやって周知していくのかが課題になっており、利用者はこういった人を希望しているのかということも課の中で把握しきれていないのが現状。

(委員)

高齢者の生きがいとしても、「こんなことでも登録できるのか」ということをもっと知ってもらえればいいのではないかと思う。

(委員)

移住について、知り合いからも「たまたま野市町だった」という声を聞く。強いメッセージ性がないのは残念に思いながらも、なくても選んでくれているのは嬉しいと感じる。部会でも発信力が大事だという話が出ているが、香南市内の小中学校のHPについて、見るだけで学校全体の雰囲気わかるようなつくり方にしていくのが検討課題だと思う。

(副市長)

情報発信については、人生支援計画だけでなく産業振興計画の各部会でも、YouTube等の活用や、市のHPがスマホ対応になっていないことの指摘等、たくさん意見をいただいている。市のHPについては令和4年度に見直し予定だったが、スケジュールを前倒して令和3年度に見直しをする。どういう形がいいのか、見やすく、使いやすいものになるように協議していく。

(委員)

公園は、市内に大小多くあると思う。自治会でも草刈り等管理をしている。かなり広い公園でも遊具が設置されていないところがあるので、ある程度の広さがあれば設置してもらえたらと思う。

(副市長)

全ての公園に遊具を設置するのは厳しい。老朽化により撤去したところもある。公園といっても大小さまざまな形があるので、情報を整理して意見を聞きながら整備を進めていく。

(委員)

公園の遊具の管理はどこがしているのか。

(副市長)

職員の目視や業者の点検を定期的に行っている。

(委員長)

さまざまな意見が出たが、他の自治体の事例をいくつか紹介する。

高齢者のごみ出しについては、ごみ出しができないと健康的にも問題が出てくるので支援が必要。ゴミ集積所を増やしたり、集積所の場所を見直したりして対応しているところもある。

河川敷のアウトドアについては、コロナ禍でアウトドア用品の売り上げが大きく伸びており、キャンプ場を整備した琵琶湖周辺ではたくさんの方が来ているという現状がある。

移住については、今、IT系企業が渋谷からどんどん出て行っている。リモートワークで充分

ということがわかってきたので、若い世代は子育てしやすいところを住む場所として選んでいる。特に兵庫県明石市は子育て支援に特化して力を入れているので移住者が増えており、移住した人が SNS で情報を発信し、さらに集まるという現状がある。

教育については、オンライン授業の強みとして世界中いろんな人に参加してもらえことや、録画していつでも見られるようになることがあり、大学だけではなく、小中高校でも既に取り組みがされている。

オンラインでは、高齢者や親子向けに体操を配信したり、世界の料理教室を配信して各家庭で作ってもらって異文化交流を進めたりしている。国連の SDG s（持続可能な開発目標）というのがあり取り組んでいるが、これだけ進んでくると、情報を上手に使いこなせるかということと、情報を取りにいく力、この2つが遅れてくるとものすごい差ができるのではないかと懸念している。

都会では、コロナで入院や在宅療養になった時も、やりとりは LINE でしているし、入院して病室にいても Zoom で診療、ということもある。抗体検査や PCR 検査のキットはドラッグストアでも手に入る状況になっている。

(副市長)

自分たちが思っている数倍の速さで IT 化等さまざまなことが進んでいる。

③R2 年度上半期数値目標及び KPI 進捗状況について—各部会事務局長から報告【資料3】—  
<意見交換>

(委員)

市の HP のアクセス数が伸びているとのこと。香南市の LINE に登録しているが、いろいろな情報が届く。内容はイベント告知や中止のお知らせが多い。今回の策定委員会の開催案内も届いたが、一般の方が見てどう思うのかなと感じた。お知らせの内容については精査、取捨選択していくべきではないかと思う。

(副市長)

LINE で配信する内容については現在、各課で判断している。もっと絞った方がいいとか、逆にもっと幅広くとか、いろいろな意見をいただいているので今後も考えていく必要がある。

④その他

・部会を超えて取り組みを進めるテーマについて —地域支援課より経緯説明【資料5】—  
人権課長より「外国人とのコミュニケーション」の取り組みについて説明

香南市では、人権課題の一つとして外国人、多文化共生社会について取り組みを行っており、先日も吉川町で多文化共生講座を開催した。

今後の取り組みとしては、香南市在住の外国人向けに日本語教室の計画をしている。生涯学習課で日本語のボランティアを募集し、ボランティア養成講座を5回程度実施してから日本語教室を開催するという計画をしている。外国の方が日本語を学ぶことで近

隣住民とのコミュニケーションが円滑になり、地域社会への参画が増えて地域の活性化が図れると考えている。

また、生涯学習課と人権課が連携して人権学習と相談事業を地域に出向いて開催するよう進めており、外国人の人権、食文化交流などを通じていろいろな話を地域で広げていきたい。このような取り組みをまちづくり協議会や自治会の事業の中でも進めていけたらと考えている。

今後、香南市に住んでいる外国人の方にニーズ調査を実施し、協議内容により関係課に参加してもらうなどテーマごとの問題点や課題を整理し、情報共有しながら取り組みを進めていきたい。

・年間スケジュールについて ー地域支援課より説明【資料6】ー

### 3. 閉会

(委員長)

今後は何をすることもマンパワーがますます必要になっていく。どこの地域もいろんな知恵を絞っている。自分も兵庫県で行政改革に参加しているが、こちらでもマンパワーが足りないのので、地元の企業にも参加してもらっている。地元の企業を巻き込んで、委員になってもらう等いろんな方法をとっている。

全国同じような課題がたくさんあると思うので、どんなことをしているのか情報収集して良いところはどんどん取り入れていけばいいのではないかと思う。